山形大学
YAMAGATA UNIVERSITY

学　長　定　例　記　者　会　見　要　項

日　　時:　平成27年12月15日（火）11:00～11:45

場　　所:　事務局第二会議室（小白川キャンパス事務局棟4階）

発表事項

１．山形大学優秀教育者賞受賞者が決定しました
２．生体内の活性酸素種の視覚化に成功
３．「やまがた食育カレンダー２０１６」が完成しました
４．学長特別講演会シリーズ（第３回）を開催します
５．「没後１００年記念　菊池新学シンポジウム」の開催
６．「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」で本学学生が優良賞を受賞
７．地域で活躍する学生団体紹介～ライフ・コンサルティングPRAS＋～

お知らせ

１．学生広報スタッフＹＵＭ！のＷＥＢをリニューアル！

（参　考）

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日　時:平成28年1月12日（火）11:00～11:45

場　所:事務局第二会議室（小白川キャンパス事務局棟4階）

学長定例記者会見（１２月１５日）発表者

１．　山形大学優秀教育者賞受賞者が決定しました

小山（こやま）　清人（きよひと）　学長

２．　生体内の活性酸素種の視覚化に成功

学術研究院　　冨樫（とがし）　整（ひとし）　教授　（保健管理センター・所長）

３．　「やまがた食育カレンダー２０１６」が完成しました

学術研究院　　大森（おおもり）　桂（かつら）　准教授

地域教育文化学部学生

４．　学長特別講演会シリーズ（第３回）を開催します

小山（こやま）　清人（きよひと）　学長

５．　「没後１００年記念　菊池新学シンポジウム」の開催

学術研究院　　元木（もとき）　幸一（こういち）　教授　（映像文化研究所・所長）

学術研究院　　石澤　靖典　准教授（映像文化研究所・所員）

６．　「トビタテ！留学ＪＡＰＡＮ日本代表プログラム」で本学学生が優良賞を受賞

工学部４年　　土屋（つちや）　みなみ　さん

７．　地域で活躍する学生団体紹介～ライフ・コンサルティングＰＲＡＳ＋～

人文学部３年　　後藤（ごとう）　颯太（そうた）　さん、相原（あいはら）　勇士（ゆうし）　さん

プ レ ス 発 表 資 料

平成２７年１２月１５日
山　形　大　学

山形大学優秀教育者賞受賞者が決定しました

平成２７年度の山形大学優秀教育者賞受賞者２４名が決定し、12月２４日（木）に授賞式を行います。

◆山形大学優秀教育者賞とは

この制度は、本学で教育や学生支援に貢献した教員を表彰し、教育活動の活性化と教員の意欲向上を図ることを目的として、平成24年度から始まりました。

「山形大学優秀教育者賞実施規程」に基づき、部局長の推薦又は自薦で候補者を推薦し、役員会の議を経て学長が被表彰者を決定します。授業評価、方法改善、社会・国際連携、普及・広報活動、学生支援について定めた指標を表彰の基準としています。

表彰は、年1回とし、学長から表彰状及び賞金が授与されます。

◆平成27年度受賞者

部　　局	受賞者数	昨年度受賞者数
人文学部	３名	３名
地域教育文化学部	４名	４名
理学部	２名	２名
医学部	５名	５名
工学部	６名	５名
農学部	２名	２名
基盤教育院	１名	１名
小白川キャンパス	１名	０名
合　　計	２４名	２２名

（参考）
平成２４年度から２７年度までの延べ受賞者数は、９５名。

◆山形大学優秀教育者受賞式

日　時：　平成２７年１２月２４日（木）　１３時３０分から
会　場：　山形大学事務局第一会議室（３階）
列席者：　役員、学部長、教育・学生支援部長

（お問合せ先）
教育・学生支援部学務課
電話：023-628-4840

山形大学優秀教育者賞実施規程

（平成24年6月13日）

改正 平成25年2月20日平成26年3月26日

(趣旨)

第1条　この規程は，山形大学優秀教育者賞(以下「優秀教育者賞」という。)について必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条　優秀教育者賞は，山形大学(以下「本学」という。)において，教育や学生支援に貢献した教員を表彰することにより，本学の教育活動の活性化及び教員の意欲向上を図ることを目的とする。

(定義)

第3条　この規程において，次の各号に掲げる用語の意義は，当該各号に定めるところによる。

⑴　部局　各学部(地域教育文化学部にあっては教育実践研究科を，医学部にあっては医学系研究科及び医学部附属病院を，工学部にあっては理工学研究科を含む。)，基盤教育院，小白川キャンパス及び事務局(男女共同参画推進室，東北創生研究所，ＣＯＣ推進室，小白川キャンパス事務部及び保健管理センターを含む。)をいう。

⑵　部局長　前号に定める部局の長(事務局にあっては教育・学生支援関係業務を担当する副学長)をいう。

(対象者)

第4条　優秀教育者賞の被表彰者は，表彰される年度において，本学の常勤の教員として在職している者とする。

(表彰の基準)

第5条　表彰の基準は，別に定める優秀教育者の指標によるものとする。

(候補者の推薦)

第6条　表彰候補者の推薦は，部局長の推薦又は自薦によるものとし，優秀教育者推薦書(別記様式1又は別記様式2)を学長に提出するものとする。

2　部局長は，前項に規定する推薦を行うに当たり，必要に応じ，学内外関係者の意見を聴くことができるものとする。

(表彰の決定)

第7条　学長は，前条の規定による推薦に基づき，役員会の議を経て，被表彰者を決定する。

(表彰)

第8条　表彰は年1回とし，学長が表彰状及び賞金を授与することにより行う。

2　前項の表彰状の様式は，当該表彰の内容に応じてその都度定める。

3　表彰は，被表彰者が決定された後，速やかに行うものとする。

(事務)

第9条　表彰に関する事務は，教育・学生支援部において処理する。

(その他)

第10条　この規程に定めるもののほか，優秀教育者賞の実施に関し必要な事項は，学長が別に定める。

附　則

この規程は，平成24年6月13日から施行する。

附　則(平成25年2月20日)

この規程は，平成25年3月1日から施行する。

附　則(平成26年3月26日)

この規程は，平成26年4月1日から施行する。

山形大学優秀教育者賞（授業評価、方法改善、企画活動、社会・国際連携、普及・広報活動、学生支援）の指標

区　　分	評　価　項　目　等
Ⅰ-1　授業評価	
1-1　学生目線	
1-1-1　授業アンケート	・ 学生による授業改善アンケートの評価の値（総合的）の〇年間の平均値を算出し、それが〇〇以上であれば、学生からの評価が高い授業 ・ 授業改善アンケートの結果、歴年の講義内容の改善度（アンケートの変化量）
1-1-2　満足度	・ 自分が受けてもっともためになった授業 ・ 受けていてもっとも楽しかった授業 ・ 学問への関心を最もそそられた授業 ・ 単位取得のために最も多くの（有意義な）努力を求められた授業 ・ 自分の生き方や考え方に対して、強い影響力を与えてくれた授業 ・ 教員の熱意を最も感じた授業
1-1-3　推薦	・ 後輩始め他の学生にすすめたい授業
1-2　教職員目線	・ 互選アンケートにより、プロの目から評価 ・ 自薦により、外から見えにくい教育への寄与を顕彰 ・ 新しい、あるいは困難な教育的取組に挑戦したこと
1-3　卒業生目線	・ 卒業生からの教育内容に関する評価
1-4　学外目線	・ 学外（社会）からの教育内容に関する評価
1-5　客観的評価	・ 学生の学習成果の客観的評価 ・ 学会における学生の評価 ・ 高度な専門職に優れた学生を輩出 ・ 高い出席率（課題提出率・単位取得率）の維持
Ⅰ-2　方法改善	
2-1　教室内授業	・ よく工夫された授業 ・ 教育の工夫、教育方法の革新 ・ 講義における学生とのコミュニケーション
2-2　テキスト	・ 教科書や講義資料の作成、他大学に採用される教材の作成 ・ 学外（社会的）から評価される教材の作成、電子教材など先進的な教材の作成 ・ 先進的な教材のための基盤技術、教材を作成する際の指針の作成
2-3　連携	・ 複数の講義科目間での連携（学期内・学期間） ・ 科目内での効率化のための企画・情報基盤の整備
Ⅰ-3　企画活動	・ 学科独自の実習、デザイン授業など、学生アンケートで評価されにくい授業への寄与を評価 ・ 教員間の教育に関する情報交換促進、若手（新任）教員などへの教育指導 ・ 教育項目基準など統一的な教育マニュアルの作成 ・ 多様性を維持するための企画 ・ 模範的講義の実施やFD活動への寄与 ・ 教育効率化のための企画
Ⅰ-4　社会・国際連携	・ 留学支援、留学生教育 ・ 日本語教育及び外国語教育に関するFD活動、留学指導、外国人留学生の指導 ・ キャリア教育、倫理教育、出前授業など、学生や学科では評価されにくい授業への寄与を評価、顕彰 ・ 地域との連携教育
Ⅰ-5　普及・広報活動	・ 授業などのカリキュラムには含まれないが、学生の教育への貢献が大であると評価される教員を表彰 ・ 例えば5年以上の期間、継続している教育、啓蒙事業を行っている教員を表彰 ・ 自分の講義内容についての普及活動（論文なども含む） ・ 山形大学の他教員の講義内容についての普及活動、
Ⅱ　学生支援	・ 生活・進路支援、課外活動指導 ・ フィールドワーク・課外活動における学生の指導 ・ 身体に障がいのある学生に対する支援 ・ その他

プ レ ス 発 表 資 料

山形大学
YAMAGATA UNIVERSITY

平成 27 年12 月 15 日
山　形　大　学

生体内の活性酸素種の視覚化に成功

L-band 電子スピン共鳴装置とスピン・プローブ試薬を用い、マウス肝炎の原因となる活性酸素種のイメージングに成功した。(Togashi H, et al. Magnetic Resonance in Medicine, in press)

【発表内容】

フリーラジカルの代表である活性酸素種は生体に酸化ストレスをもたらし、健康障害を招く。過剰な活性酸素種の産生は、炎症、発がん、糖尿病や高血圧などの生活習慣病の原因となっている。生体内の活性酸素種を視覚化により、病気の原因究明や治療選択に役立つと考えられる。

L-band 電子スピン共鳴装置と活性酸素種を検出できるスピン・プローブ試薬を用い、マウス肝炎の原因となる活性酸素種の視覚化（描出）に成功した。(Togashi H, et al. Magnetic Resonance in Medicine, in press)

【今後の展望】

L-band 電子スピン共鳴装置は、マウスなどの小動物の酸化ストレスの解析には十分であるが、根本となる技術的な問題からヒトへの応用は不可能である。

MRI（Magnetic resonance imaging）装置によるT1強調画像にて常磁性を持つフリーラジカルの信号強度が増大することから、活性酸素の過剰産生（酸化ストレス状態）をMRI装置にて視覚化し、将来的な臨床応用につなげたい。

（お問合せ先）
保健管理センター所長
学術研究院・教授　冨樫（とがし）　整（ひとし）
電話　023-628-4153

学長記者会見

生体内の活性酸素種の視覚化に成功

山形大学保健管理センター
冨 樫　整

平成27年12月15日

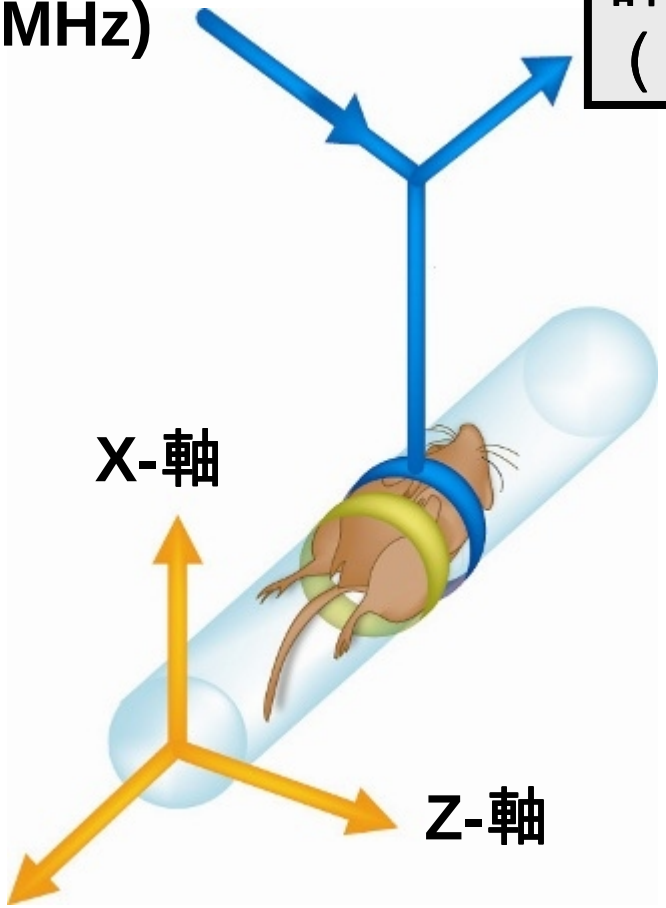
背景について

過剰な活性酸素 ⟹ 酸化ストレス

酸化ストレスの関与する病気

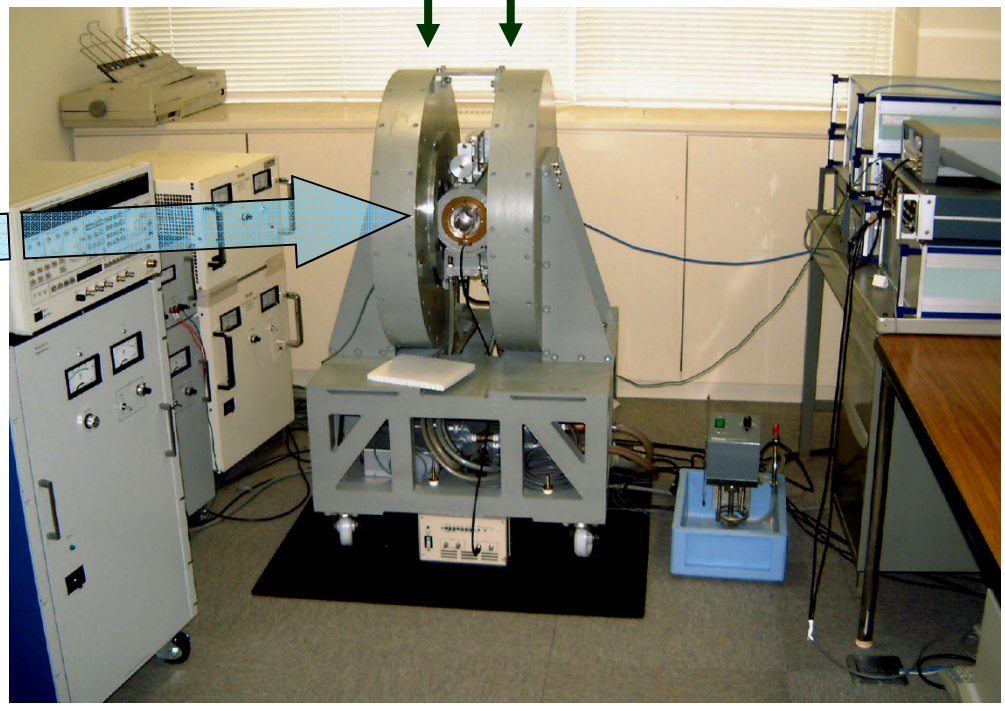
- がん
- 脳心血管障害
- 肺炎
- 高脂血症・高血圧・糖尿病

L-band 電子スピン共鳴装置について



計測と解析
（画像化）

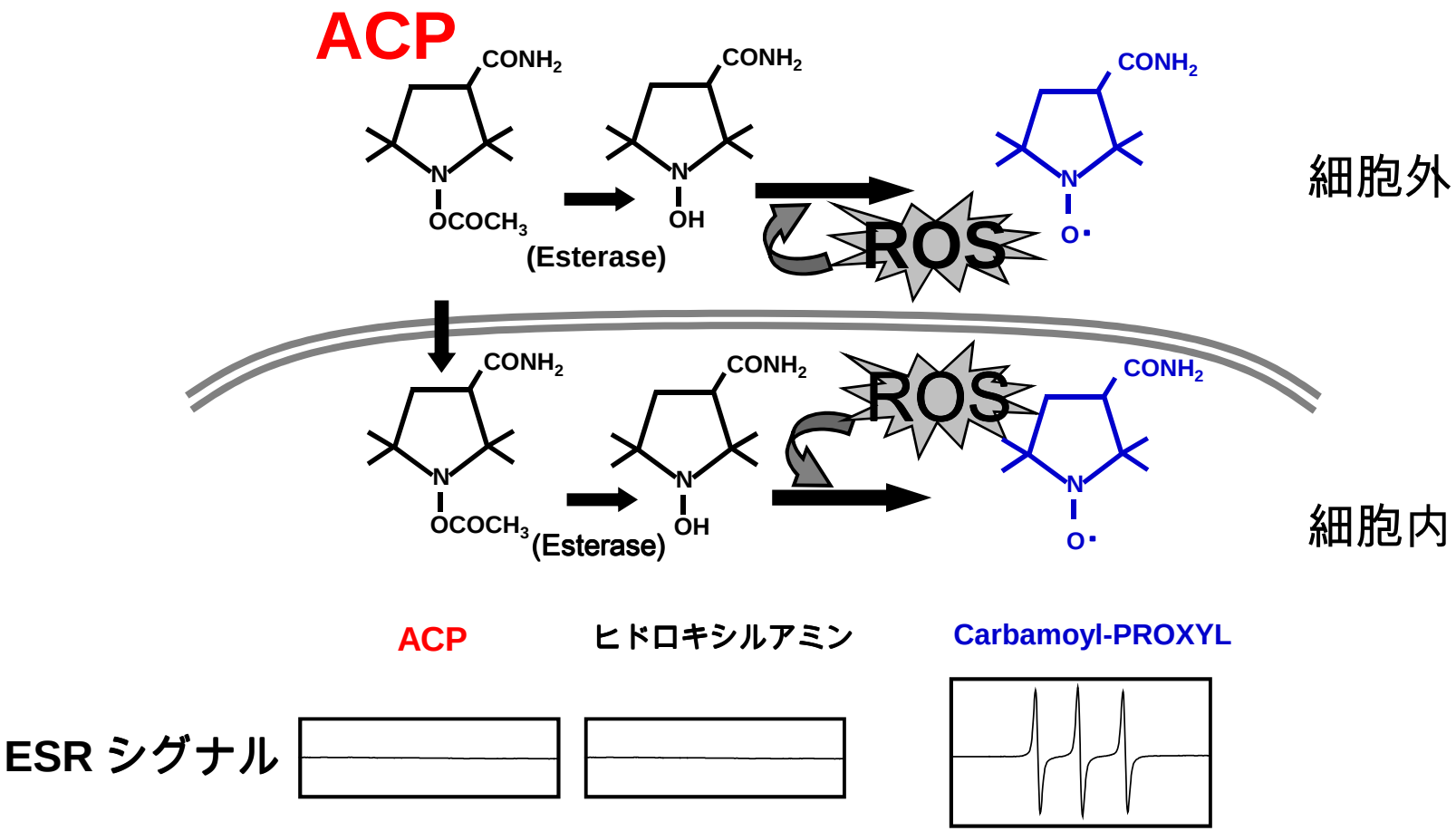
電磁石



L-band 電子スピン共鳴装置

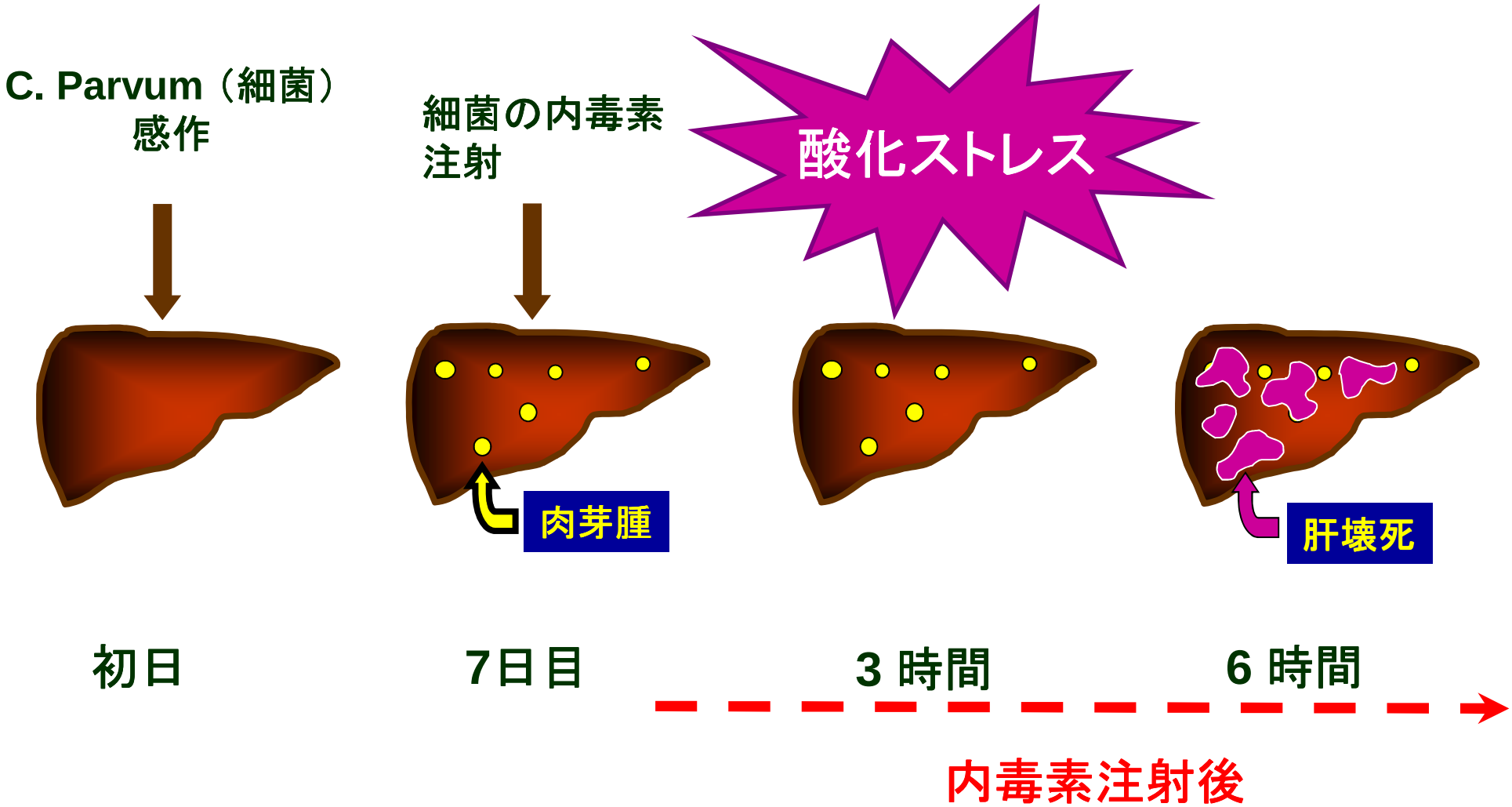
Togashi H, et al: Magnetic Resonance in Medicine, in press

スピンプローブ剤ACPの応用

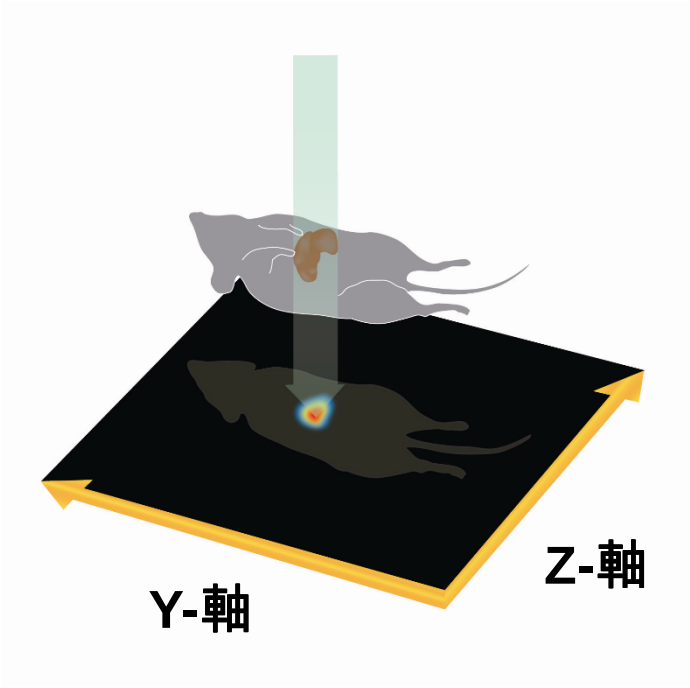


Togashi H, et al: Magnetic Resonance in Medicine, in press

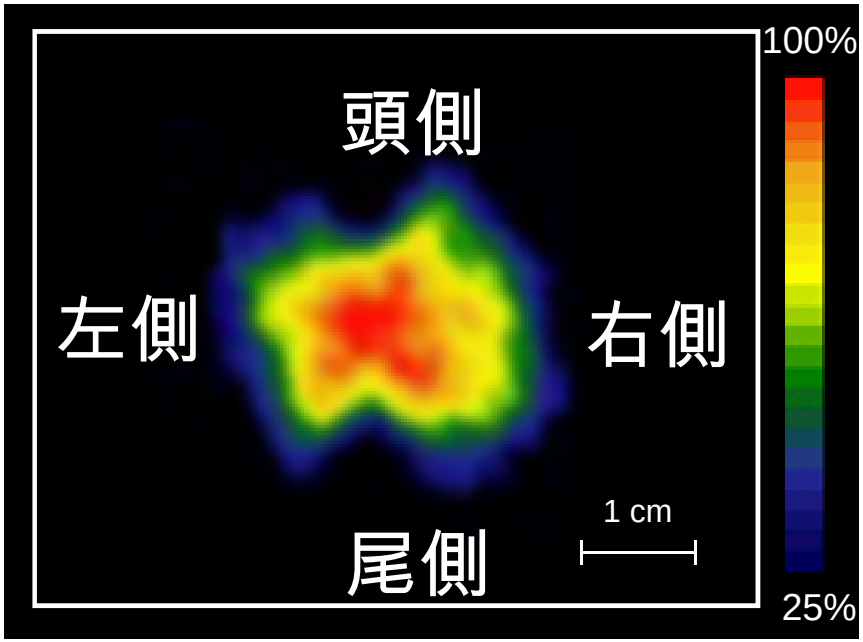
マウス劇症肝炎モデル



マウス劇症肝炎モデルでの活性酸素の臓器（肝）内イメージング（ACPを用いて）



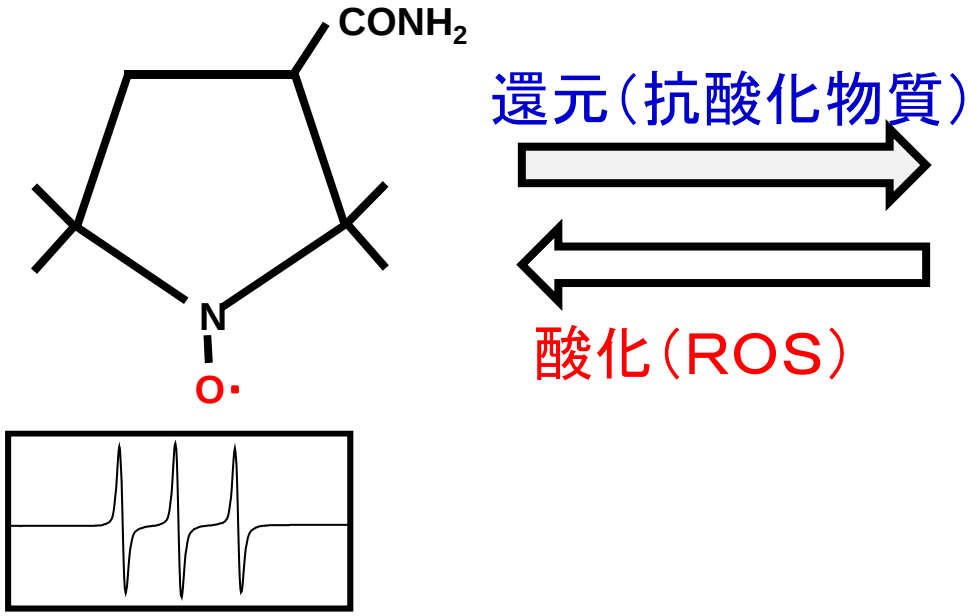
ZY平面投影図



Togashi H, et al: Magnetic Resonance in Medicine, in press

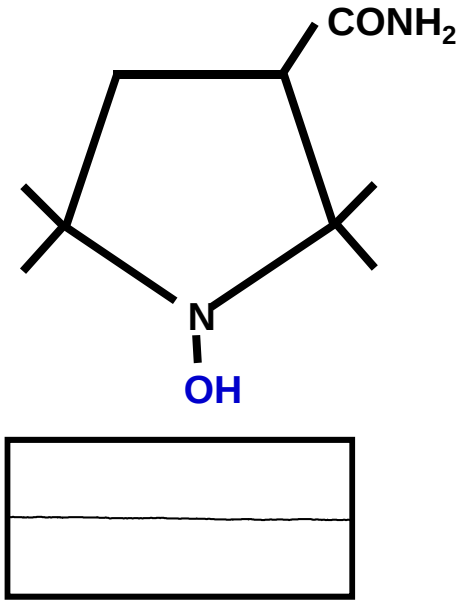
ESR装置からMRI装置へ

Carbamoyl-PROXYL



ESR シグナル

ヒドロキシルアミン



ESR シグナル

MRI（T1）にて検出可能

スピンプローブの開発とMRIでの臨床応用

プ レ ス 発 表 資 料

平成27年12月15日
山　形　大　学

「やまがた食育カレンダー２０１６」が完成しました！

全頁カラーの食育カレンダーが今年も完成しました。「家庭や学校で子どもと食べ物について話したり、地場産物を味わうきっかけになれば」との願いから、栄養士や栄養教諭、家庭科教員を目指す地域教育文化学部食環境デザインコースの学生が作成しました。
５年目となる2016年版のテーマは、「米料理で世界旅行！」です。初登場のJA全農山形のキャラクター「おこめんジャー」と一緒に、毎月世界各国をめぐり、「食の世界旅行」をお楽しみ頂けます。

１．本カレンダーの特色

(1) 見開き上部：その月にちなんだ料理を学生が考案。実際に調理し、画像と共に作り方を紹介。
(2) 見開き下部：食にちなんだ記念日、地場産物の紹介など、毎日異なる話題を掲載。
(3) 末尾：更に詳しく知りたい方のために、記念日の由来や地場産物の解説を掲載。

２．本カレンダーにより期待される効果

家庭や学校、保育園・幼稚園等における食育の教材として様々な活用ができます。
①見開き下部の毎日の話題をきっかけに、巻末の詳しい解説も活用しながら、子どもの興味に応じて幅広い学習が継続的にできます。
②山形で味わえる毎月の旬の食材や郷土料理も紹介しており、子どもだけでなく、保護者、特に若い世代の保護者にも山形の郷土食に興味を持って頂き、地産地消にも貢献できるのではないかと考えています。

３．発行に至るまでの経緯

２０１１年、本コース３年生対象の授業「栄養教育実習Ⅱ」において、担当教員である大森桂准教授が、カレンダーの製作を提案。学生が班ごとに担当する月を決め、毎日の食に関する話題として掲載する内容を調査。毎月の料理の考案・調理も学生が担当。編集作業は、本学の男女共同参画推進事業の一つである、研究継続支援員制度を活用。料理の撮影およびカレンダー全体の監修は大森准教授が担当。毎年、県内に限らず、北海道から九州まで、個人、各種学校、企業、行政機関等から、多数の入手申し込みを頂いています。

４．配布について

今回は１，５００部発行。ご希望の方は、返信用封筒（角形２号）に送付先を記入し、送料（１部であれば２５０円）分の切手を同封の上、大森研究室（山形市小白川町1-4-12山形大学地域教育文化学部）までご郵送下さい。詳しい入手方法は、学部ＨＰに掲載。

（お問合せ先）
地域教育文化学部事務室　023-628-4304

プレス発表資料

平成 27 年 12 月 15 日
山　形　大　学

学長特別講演会シリーズ（第３回）を開催します

山形大学の使命「**地域創生**」「**次世代形成**」「**多文化共生**」を国内外に発信するために学長特別講演会シリーズ「**山形から世界へ**」を開催します。

【開催主旨】

平成 28 年度からの第３期中期目標・中期計画期間を前に設定した山形大学の３つの使命**「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」**を国内外に発信します。学内に対しては「山形から世界に通用する技術やプロダクト・学術研究をどんどん生み出そう。そして、山形を元気にして地域創生につなげよう」とのコンセプトを定着させるべく、公開の学長特別講演会を継続的に開催します。

【小山清人学長メッセージ】

山形大学では**「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」**を使命としております。

私は、この３つの使命について国内外の様々な分野で活躍されている方と意見を交わすことによって、学内教職員はもとより、学生諸君や地域の皆さまと一緒に将来の山形大学の姿についての共通理解を深めたいと考えております。

皆さま、是非ご参加ください。

【モデレーター：土井正己特任教授】

元トヨタ自動車株式会社（グローバルコミュニケーション室長、広報部担当部長）

【方法】

国内外の著名な講師陣による小山学長主催の特別公開講演会を継続的に（2 か月に 1 回程度）学内で開催します。参加無料。

【対象】

学生、教職員、高校生、一般市民

【第３回実施概要】

別紙チラシをご覧ください。

（お問い合わせ）
総務部総務課広報室　樋口
電話：028-628-4008
Mail : koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

学長特別講演会シリーズ
「山形から世界へ」

第3回 開催決定

（タイトル未定）

平成28年

1月29日（金）

16:30～18:00

会　場：山形大学小白川キャンパス 人文学部１号館３０１教室

司 会：土井 正己・山形大学特任教授

16:30　開会の挨拶　山形大学長 小山 清人

16:40　講　演

講　師：**ピーター・ランダース 氏**

（ウォール・ストリート・ジャーナル紙 東京支局長）

17:30　対　談（ランダース氏、小山学長）

18:00　閉　会

【 講師プロフィール 】

イェール大学卒業。アメリカの経済紙ウォール・ストリート・ジャーナル紙のワシントンD.C.支局、ニューヨーク支局での勤務を経て、現在は東京支局長を務める。
日本語に堪能なことから、テレビ番組などでも活躍中。

◆ 対　象：学生、高校生、一般（定員203名）※定員になり次第締切

◆ お申込み方法：住所、氏名（ふりがな）、年齢（学生の場合は大学・学部・学科）、電話 番号をご記入の上、Eメールでお申込み下さい。

送 信 先：koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

◆ 締　切：平 成２８年１ 月 25日（月）

会場へのアクセス・
お申込みメールアドレスは
こちらから

お問い合わせ先
山形大学総務部総務課広報室　〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
TEL: 023-628-4008　FAX: 023-628-4013　http://www.yamagata-u.ac.jp

山形大学
YAMAGATA UNIVERSITY

プ レ ス 発 表 資 料

山形大学
YAMAGATA UNIVERSITY

平成 27 年 12 月 15 日
山　形　大　学

「没後100年記念 菊池新学シンポジウム」の開催

本年2015年は、山形市内に東北初の写真館を開業したことで知られる菊池新学の没後100年にあたります。これを記念し、人文学部附属映像文化研究所では、「東北初の写真家、菊池新学と山形の写真文化」をテーマとするシンポジウムを開催いたします。２名の研究者をパネリストとして招き、東北に写真という新たな映像メディアをもたらした新学の歴史的意義とその後の山形における写真文化のひろがりについて、多面的に検証します。一般の方々の来聴も歓迎いたしますので、奮ってご参加ください。

◆ シンポジウム概要
テーマ：東北初の写真家、菊池新学と山形の写真文化
日時・場所：12月20日（日）14：00～17：00、人文学部205教室
主催：山形大学人文学部附属映像文化研究所
※ 事前申し込み不要、入場無料、一般来聴歓迎

◆ パネル報告内容
・ 野口一雄（山形市文化財保護委員・山形県立博物館専門嘱託）
　「没後100年　東北写真業の魁け 菊池新学とその作品から」
・ 平井鉄寛（鶴岡アートフォーラム副館長兼主任学芸員）
　「山形における写真のひろがり」
※ パネル報告に続き、コメンテーター（山形美術館副館長 岡部信幸）をまじえたディスカッションをおこないます。

◆菊池新学（きくちしんがく）（1832－1915）
1832年（天保3年）、天童市の若松寺別当新蔵坊に生まれる。江戸で蘭学者行方敬篤から写真術を学び、1868年（明治元年）、山形市七日町に東北初の写真館を開業した。1880年（明治13年）、山形県初代県令三島通庸より「御用写真師」に任命され、県内の官公庁施設、学校、病院、道路、架橋などを撮影した。これらの写真のうち84点が、アルバム『山形県写真帖』として編纂され、明治天皇に献上された。新学の写真館は山形の写真文化の拠点として大いに繁盛し、その門人からは次代を担う多くの有能な写真家が輩出した。1915年（大正4年）84歳で他界。

《菊池新学の肖像》天童市立旧東村山郡役所資料館蔵

（お問合せ先）
学術研究院（人文学部担当）准教授　石澤靖典（いしざわやすのり）
電話：023-628-4294

菊池新学《明治14年撮影の山形市街》山形大学附属博物館蔵

没後一〇〇年記念 菊池新学シンポジウム

東北初の写真家、菊池新学と山形の写真文化

2015年
12/20（日）午後2時～5時

事前申込不要・参加無料

パネリスト

野口 一雄 山形市文化財保護委員・山形県立博物館専門嘱託・天童市文化財保護審議会委員
「没後100年 東北写真業の魁け 菊池新学とその作品から」

平井 鉄寛 鶴岡アートフォーラム副館長兼主任学芸員
「山形における写真のひろがり」

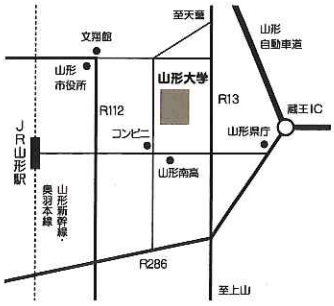
ディスカッション

コーディネーター **石澤 靖典** 山形大学人文学部准教授

コメンテーター **岡部 信幸** 山形美術館副館長

山形大学小白川キャンパス
人文学部1号館205教室
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
TEL 023-628-4203
E-mail jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

交通案内 ＪＲ山形駅前から「県庁行き」バス乗車、「山形南高前」下車、徒歩５分



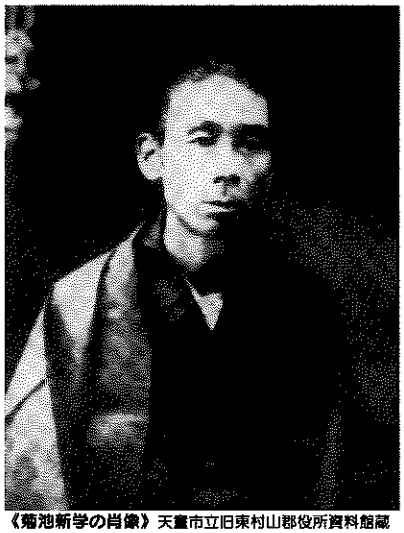
山形大学 Yamagata University

［主催］山形大学人文学部附属映像文化研究所

没後一〇〇年記念
菊池新学シンポジウム

東北初の写真家、菊池新学と山形の写真文化

本年二〇一五年は、
山形市内に東北初の写真館を開業したことで知られる
菊池新学の没後一〇〇年にあたります。
これを記念し、本シンポジウムでは
二名の研究者をパネリストとして招き、
東北の近代化を記録した新学の歴史的意義と
その後の山形における写真文化のひろがりについて
多面的に検証します。



《菊池新学の肖像》天童市立旧東村山郡役所資料館蔵

菊池 新学（きくち しんがく）（1832～1915）

1832年（天保3年）、天童市の若松寺別当新蔵坊に生まれる。青年期から、父常右衛門の影響により、当時日本に伝来したばかりの写真に強い関心を持つ。1867年（慶応3年）、江戸に上り、蘭学者行方敬篤から写真術を学ぶ。帰郷後の1868年（明治元年）、山形市七日町（現山形銀行本店角）に東北初の写真館を開業した。

1880年（明治13年）、山形県初代県令三島通庸より「御用写真師」に任命され、三島が建設を指揮した県内の官公庁施設、学校、病院、工場、道路、架橋、トンネルなどを撮影した。これらの写真のうち84点が、アルバム『山形県写真帖』に編纂され、明治14年の明治天皇東北巡幸の際に三島の事蹟の記録として、天皇に献上された。

新学の写真館は山形の写真文化の拠点として大いに繁盛したばかりでなく、その門人からは次代を担う多くの有能な写真家を輩出した。また同時代の絵画に与えた影響も大きく、とりわけ「近代洋画の父」高橋由一は新学の写真をもとに、代表作《山形市街図》をはじめとする数点の山形景観図を制作した。

晩年は写真業を子孫に譲り、僧籍に入る。故郷の若松寺如法堂の住職となり、1915年（大正4年）84歳で他界した。

没後100年 東北写真業の魁け 菊池新学とその作品から

パネリスト 野口 一雄

山形市文化財保護委員・山形県立博物館専門嘱託・天童市文化財保護審議会委員。
菊池新学の資料調査、および新出作品の調査に携わり、2015年に天童市立旧東村山郡役所資料館で開催された「没後100年 菊池新学展」の企画・運営を担当した。

山形における写真のひろがり

パネリスト 平井 鉄寛

鶴岡アートフォーラム副館長兼主任学芸員。
明治期に山形県内で活動した写真家についての調査研究をおこなう。2013年に東京都写真美術館で開催された展覧会「夜明けまえ—知られざる日本写真開拓史（北海道・東北編）」では東北編の構成と展示を担当した。

［会場］山形大学小白川キャンパス人文学部1号館205教室 〒990-8560 山形市小白川町1-4-12（ＪＲ山形駅前から「県庁行き」バス乗車、「山形南高前」下車、徒歩５分）

［お問合せ］ TEL 023-628-4203　E-mail　jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学
Yamagata University

プ レ ス 発 表 資 料

山形大学
YAMAGATA UNIVERSITY

平成２７年１２月１５日
山　形　大　学

「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」

で本学学生が優良賞を受賞

昨年９月から今年５月末まで官民協働海外留学制度「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」の一期生としてドイツ・ザクセン州経済振興公社でインターンをしてきた土屋みなみさん（工学部応用生命システム工学科４年）が、11 月１日に芝浦工業大学で行われた第１回成果報告会で発表した結果、参加者約 120 人中 4 人が選出される優良賞を受賞し、馳文部科学大臣から賞状が授与されました。

１．　受賞について

成果報告会参加者は一期生323人中約120人。馳文部科学大臣から賞状を授与されるのは最優秀賞１人、優秀賞１人、優良賞４人の計６人で、土屋さんは優良賞を受賞しました。「尊敬して止まないトビタテ！の仲間たちの中でまさか自分が受賞できるなんて、信じられませんでした。プレゼンテーションに苦手意識があり、それを少しでも克服したいと思ったので、研究室に迷惑をかけながらも自分なりに準備しました。その甲斐があったようで素直に嬉しく思います。これも私に関わってくださったすべての方々のおかげです。感謝してもしきれません。この栄誉に恥じないよう、今後もできる限り精進します。」と話しています（報告会概要：別添資料参照）。

２．　発表内容概要

土屋さんの発表内容概要は以下の通り。

題名：2020年、グローカルリーダーの卵・ビジネスも分かる工学博士Dr.みなみ誕生！

留学前、旺盛な好奇心の赴くままに浅く広く、やりたいと思うものに挑戦してきた一方で、自分がしたいことが何かわからなくなってきており、なんとなく就職や進学の準備をしていた。そんなとき掲示板で出会ったのが、まだ名前すらついていていなかった本プログラム。大学に入学してから漠然と憧れていたが諦めていた留学の機会を知り、当時おこなっていた就職活動や公務員試験勉強の一切をやめ、選考準備に集中することを決意した。選考では合格したい一心で多少格好つけていたが、留学の本当の目的は自分の将来を見つけに行くことだったこともあり、小さいころから夢だった海外で働くこと（今回のインターン）と自分への挑戦の意味を込めて英語での専門分野外の講義聴講とをおこなう計画で申請した。

留学中は大学の授業をいくつかサボってしまったり、ドイツにいる意味を悩んだりと大なり小なり浮き沈みの激しい9ケ月間だったが、そんなとき奮い立たせてくれたのが、トビタテ！関連の以下の二つのことだ。一つ目はトビタテ！のミッションに則ってつくった名刺。日本のPRを載せた“名刺”を配ろうというコンセプトに基づき、日本地図と東北のPR

を載せて250枚以上配った。そうしていく中で、留学前に持っていた秋田県民というアイデンティティではなく、東北人という新たな自分を見出した。また、「仕事は楽しいが、日本でもでき得るものである。ドイツにいる意味はなんなのだろうか」と悩んでいたときのこと。オフィスでもらった名刺を何気なく整理しているとき、直属の上司が「それはあなたの宝物ね」と言ってくれたことがきっかけで、ドイツに来た意味が“名刺”によって得られた人脈であることに気づいた。

二つ目はトビタテ！で留学している仲間との現地での交流。自分とは違う分野で活躍し、楽しんでいる仲間と出会い「彼らなら世界を変えられる。自分ができないことは彼らに任せれば良く、何もかもできる必要はない。」と現実を知り、「自分は自分のしたいことやできることを精一杯楽しくやろう。」と良い意味で開き直れるようになった。留学前の、好奇心旺盛故にしたいことが分からなくなっていた自分と別れられた瞬間だった。

また、インターンそのものも進路決定に大きな影響を及ぼした。インターン先は研究機関でもなければR&D部門のある会社でもないのだが、複数の同僚が博士号を所持していることを知り、博士号はライセンスのひとつで、必ずしも研究職に就かなくてもよいことが分かって面白く感じた。また、現地での日々の仕事から日・独あるいはビジネス・工学の懸け橋をすることへの興味が増した。このことから、博士号を世界規模での客観的なライセンスとして取得し、それを活用して何かをつなぐ仕事がしたいと思うようになった。

名刺によって得た東北人という新たなアイデンティティと人脈、トビタテ！生と出会ったことで学んだ、「自分にできることを楽しく深く学べ」というモットー。そしてインターンで興味が増したビジネスと工学の両分野が、リーディングプログラムに採択された山形大学に通っている自分だから学ぶことができるという巡り合せ。これらを鑑みて、次のステップとして山形大学の修士・博士一貫フレックス大学院に進み、これまで自分に足りなかった専門性や深みを得ることへの挑戦を決意。まずは2020年に、ビジネスも分かる工学博士になることを目標としている。将来は東北（ローカル）にいながら世界（グローバル）とつながるグローカル（グローバル＋ローカルの造語）リーダーになって、東北やトビタテ！にご恩返しをするために…。

（お問い合わせ）
有機エレクトロニクス研究センター
副センター長　　高橋　辰宏
電話：　０２３８－２６－３５８５
（参考URL）
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/tobitate/index.htm

＜参考資料＞

1, トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム成果報告会について

1-1, 成果報告会全体概要（別添資料参照）

1-2, 表彰式の様子

表彰者集合写真（右から２番目が土屋さん）

馳文科大臣からの表彰状授与

馳文科大臣との握手

2, 同プログラムについて

2-1, 文部科学省HPより

文部科学省は、意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学をはじめとして新しいチャレンジに自ら一歩を踏み出す気運を醸成することを目的として、平成25年10月より留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」を開始しました。

この取組は、政府だけでなく、社会全体で海外留学の促進を取り組むことにより大きな効果が得られるものと考え､各分野で活躍されている方々や民間企業か らの御支援や御寄附などにより、官民協働で「グローバル人材育成コミュティ」を形成し、将来世界で活躍できるグローバル人材を育成します。

これらの取組により、「日本再興戦略～JAPAN is BACK」（平成25年６月14日閣議決定）において掲げた目標である東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年までに大学生の海外留学12万人（現状６万人）、高校生の海外留学６万人（現状３万人）への倍増を目指します。

2-2,山形大学の国際交流活動現状とトビタテ！留学JAPANへの採択状況

山形大学工学部では、実践力あるｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ人材の育成と輩出にむけこれまでに海外長期留学およびｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ派遣等を積極的に行っています。将来ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙに活躍できる人材を育成する「官民協働（文部科学省、日本学生支援機構、各分野で活躍されている方々や民間企業からの支援・寄附などによる）海外留学制度ﾄﾋﾞﾀﾃ！留学JAPAN日本代表ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」にて1700名の応募中323人が選考されたうちの一人である土屋みなみさんは、工学部初の合格者かつ一期生でした。本大学からはこれまでに２期生１名、３期生３名が採択されています。

全体概要

TOBITATE! NEXT JAPAN

■タイトル　官民協働海外留学支援制度
「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」
第１回 留学成果報告会

■実施日時　2015年11月1日（日）
10：00　～　18：00
※受付 08：30 ～ 09：00

■実施会場　芝浦工業大学　豊洲キャンパス　（教室棟、交流棟）
住所：東京都江東区豊洲3丁目7番

■対象
- 派遣留学生　120名
- 見学者　200名程度

■プログラム
- 10：10～　プレゼンテーション（午前）
- 11：30～　ポスターセッション（午前）
- 12：30～　昼食
- 13：00～　プレゼンテーション（午後）
- 14：15～　ポスターセッション（午後）
- 15：50～　代表学生プレゼンテーション
- 17：00～　表彰式
- 17：35～　閉会式

■主催　文部科学省　官民協働海外留学創出プロジェクト

■各賞

・最優秀賞	1名
・優秀賞	1名
・優良賞	4名
・奨励賞	6名
・審査員特別賞	12名
・アンバサダー特別賞	1名
・エヴァンジェリスト特別賞	1名

プレス発表資料

平成２７年１２月１５日
山　形　大　学

地域で活躍する学生団体紹介

～ライフ・コンサルティングPRAS+～

「地域創生」を使命の1つとする山形大学では、学生が地域で様々な活躍をしています。今回は、「ライフ・コンサルティングPRAS+」をご紹介します。

【ライフ・コンサルティングPRAS+とは？】

山形大学人文学部３年生後藤颯太と申します。このライフ・コンサルティング PRAS+という団体は現在山形地域で活動しているキャリア支援学生団体です。

メンバーは山形大学２、３年生で、現在１１名おります（サークル結成届提出中）。

Promote the Reason and Ability for Success

○活動理念

「成功までのプロセスとゴールを提示し、成功の絶対量を増加させる」ミッションとして

① 「人材配分の最適化」-自分がやりたいことをやれる社会にする
② 「ソーシャルインパクトの創出」-成功の種類を増やす
③ 「社会貢献と自己実現を同時に達成する人材の輩出」- 一粒で二度おいしく社会生活を楽めるる人材の創造

の３つを設定しています。

学びを求める学生へのプラスな情報サービス
PRASeed+

○展開中の３つ事業

① マッチング事業「PRASeed＋」

東京と地方との機会平等を目指し、宮城、山形の学生と企業をつなぐサービス。

ラインを使用し、イベント、セミナー、インターン、書籍、メディア、アプリ等の情報

を配信しています。

② メディア事業「News Portal PRAS＋」

webメディア。自分と社会の「未来」を見据えるための情報を、キャリア・コラム・テクノロジー等多角的視点から提供するメディア「News Portal PRAS＋」を運営しています。

③ イベント事業

「人生観、職業観を考えるワークショップ」「現代風キャリアセミナー！」

若者のキャリアアップ支援のイベント事業を展開しています。

〇今後の抱負

現在は団体としての活動をしていますが、将来は法人化し、会社として活動していくことも検討しています。山形地域に限らず、日本全国をビジネスで変えていきたいと考えています。今後共よろしくお願いいたします。

ライフ・コンサルティング PRAS+ 代表　後藤颯太

（お問い合わせ先）
小白川キャンパス事務部学生課
電話：０２３－６２８－４１２１

プレス通知資料

平成２７年１２月１５日
山　　形　　大　　学

学生広報スタッフYUM！のwebリニューアル！

12月14日に学生広報スタッフYUM!（大学が雇用する学生による学生広報活動）のwebをリニューアルしました。

【学生広報スタッフYUM！とは】

山形大学では、学生支援業務等の充実と学生の就業意識の向上を図るため、学生を修学に支障のない範囲で雇用するアドミニストレイティブ・アシスタント（AA）制度を実施しています（平成21年度より）。YUM!（Yamagata University Magazine）は、AA制度により雇用された学生による大学学生広報活動です。現在各キャンパスで18名のスタッフが様々な活動を行っています。

【リニューアルの概要】

今回のリニューアルでは、大きく2つの変化があります。第1に、SNS連動やSEO（サーチ・エンジン・オプティマゼーション）対策システムなどによって、宣伝効果や広報範囲を改善したことです。これによってより多くの方々にYUM!の記事を閲覧してもらい、山形大学生の活動について知っていただきます。

第2に、CMS（コンテンツマネジメントシステム）を改善し、快適な記事執筆環境を整備すると同時に、レスポンシブデザイン（スマホやタブレットでも見やすく使いやすいデザイン）を採用することで、YUM!と読者の双方が、コンテンツを便利に利用・閲覧できるようにしました。

公式HP：http://www.yamagata-university.jp/
Eメール：yum_yamagatamagazine@yahoo.co.jp

（お問い合わせ先）
総務部総務課広報室
電話：023-628-4008
Mail：koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp